

も 林 の 話

第3話
網走西部森林管理署
西紋別支署
寺田 崇晃

もしスズメバチがそこにいたらその場をすぐに離れなくなってしまうですが、そのスズメバチのふりをして天敵から逃れようとする昆虫がいます。

オオトラカミキリはスズメバチに似た模様をしますが、カミキリムシという木材を食べる昆虫の仲間です、もちろん人を刺すことはありません。



オオトラカミキリ(♀)

オオトラカミキリは体長3cmほどの大型のカミキリムシで、国内では北海道から九州まで広く生息しており、道内ではほぼ全域に分布しています。成虫が7月中旬頃から8月にかけて現れますが、他のカミキリム

シと違って伐採した木にほとんど集まらないため、その姿を見ることは容易ではありません。

オオトラカミキリは幼虫がトドマツ生立木の形成層と辺材部を食べますが、幼虫が食い進んだ痕はミミズのように樹皮が盛り上がり、さなぎになる部屋を作った周囲の樹皮は年数がたつとはがれて渦巻きのような食痕が見えるようになります。



食害を受けたトドマツ

このようにオオトラカミキリはトドマツの害虫となつていますが、その被害はたった2匹のオオトラカミキリに食べられたトドマツが枯れてしまうこともある

ほど強力です。被害に遭った木が枯れなかった場合にも食痕から腐れが入ってしまったたり、幹が変形してしまったりするなど、木材としての価値が下がってしまいます。また、被害に遭った木は風に弱くなり、食害されたところから折れやすくなります。私は被害の著しいところを見たことはありませんが、植栽したトドマツの50%以上が被害を受けた例もあるようです。



食害で枯死したトドマツ

西紋別支署のある滝上町での成虫の目撃情報はありませんでしたが、山でトドマツを見ていると少ないながらも幼虫の食痕がありま

すので、町内の広い範囲に生息しているようです。ただし生息しているからといってそう簡単に出会えるものではなく、昨年は町内で比較的痕跡の多い林道を休日一日中探してみても、出会うことはできませんでした。



滝上町内で見つけた食痕

署内でこのカミキリムシを見たことがないか聞いてみると「他のところにいる時、いつの間にか身体に付いていて、ハチだと思った」という方もいました。これからの季節に山を歩くと、もしかしたらオオトラカミキリに出会えるかもしれません。